MIRAI
［人と防災未来センターニュース］

［人と防災未来センターニュース］
発行／阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター
DRI
Vol. 15

Contents

特集	人と防災未来センターふれあい防災Day2005開催	1
	8.16宮城地震調査報告	3
	センターの夏休み企画	4
	副センター長兼研究部長と専任研究員のご紹介	6
	リサーチフェローからの便り	7
	壁面展示開催中!	8

特集　人と防災未来センターふれあい防災Day2005開催

人と防災未来センターの活動を市民の方々に紹介することを目的に平成17年7月30日、人と防災未来センター「ふれあい防災Day 2005」を開催しました。

当日は専任研究員による実践的防災研究の最新の成果の紹介、災害時に役立つ体験コーナーや阪神・淡路大震災“わたしたちの復興”プロジェクトについての展示も行いました。

研究発表をする平山研究員

■ 実践的研究の紹介

はじめに，河田惠昭センター長による講話では，平成16年新潟県中越地震やスマトラ沖地震など最近の災害事例を踏まえ，実践的防災研究とはどのようなものであるのかについて話がされました。引き続き，専任研究員6名が研究の紹介を行いました。

センター長による講話

越山健治：復興公営住宅から見た人々の復興意識
照本清峰：台湾集集大震災からの復興過程に学ぶこと
永松伸吾：地域経済の早期復興のために何が必要か
原田賢治：東南海・南海地震による津波に備えて
平山修久：水害時の災害廃棄物量について
福留邦洋：居住環境と復興 ー災害で何が明らかになったかー

質疑応答では，会場から経済復興や地域コミュニティなどに関する質問が相次ぎ、活発な議論が交わされました。

会場の様子

現地調査の写真紹介

特集　ふれあい防災Day2005開催

■ 体験コーナー

防災未来館ロビーでは資料室スタッフによる体験コーナー【災害時に役立つ簡易トイレ＆スリッパを作ろう!】【非常食を食べてみよう!!】を開催しました。夏休みに行われたこともあり、好奇心旺盛な子どもたちも大勢参加し、阪神・淡路大震災当時の状況や災害に対する備えや工夫について学びました。その他の参加者も各家庭での備えについて熱心に耳をかたむける姿が見られました。

簡易トイレ＆新聞紙スリッパを作ろう！

「新聞紙でスリッパが作れる!?」　災害時に役立つものとして常に挙げられるスリッパ。いざという時、身近な材料で簡単に作れます。もしもの時に備えて、参加者たちは新聞紙で実際に折って【新聞紙スリッパ】の作り方を熱心に学んでいました。

新聞紙でスリッパを折る参加者

新聞紙スリッパ

非常食を食べてみよう!!

食べることは生活において何より大切なことのひとつです。非常時だからこそ、食事や栄養には気をつけなければなりません。阪神・淡路大震災時、電気・ガス・水道が使えない中での水や食料の確保は大変でした。災害が起きた時のために備える非常食について試食もまじえて勉強しました。

災害時に役立つ食べ物について学ぶ参加者

非常食を試食する参加者

■ 阪神・淡路大震災“わたしたちの復興”プロジェクト展示

センターではこれまでの復興に向けた歩みを市民一人ひとりが改めて振り返り、貴重な経験と教訓を阪神・淡路地域全体で共有し、将来に向けて記憶にとどめるため、阪神・淡路大震災“わたしたちの復興”プロジェクトを進めていますが、神戸にとって象徴的な道路であるフラワーロードについて市民の方々から提供された写真を基に震災前・震災後・現在の３つの時点を３次元ＧＩＳで再現した映像を展示しました。この映像は 50 インチのタッチパネルディスプレイを自ら操作して、自由に見られるため、多くの参加者が興味を持ちタッチパネルを操作していました。

タッチパネルを見る参加者

8.16宮城地震調査報告

2005年8月16日午前11時46分頃に最大震度6弱の地震が宮城県沖を震源として発生し、東北から関東を中心に強い揺れが各地を襲い、直後には津波注意報が宮城県沿岸に発令されました。人と防災未来センターでは発災当日の8月16日から2日間にわたり、照本清峰専任研究員、安富信研究調査員、川瀬智也事業課主任を派遣し、現地の被災状況と対応状況の調査を行いました。

今回の地震で目立った被害は仙台市泉区のスポパーク松森の屋内プールの天井落下です。幸いにも死者は出ませんでしたが、負傷者31名の被害でした。大規模空間における天井の崩落事故については2003年の十勝沖地震において空港ターミナルで被害が出ています。大規模空間をもつ建築物は全国的にも多くあり、そのような施設の点検や改善は今後必要でしょう。

スポパーク松森の天井崩落現場

また、宮城県沖地震の被害の危険性の一つとして津波による被害があげられます。今回の地震後にも津波注意報が発表され、沿岸部の各自治体では広報・連絡体制は速やかに行われたと評価されています。しかし津波の危険性に対する住民への連絡体制は整備されてきている一方、情報の受け手である住民がそれに応じて避難するかどうかは別の問題です。津波の危険性に対する情報連絡体制の整備とともに、住民に対して防災意識を再喚起していかなくてはいけないでしょう。

宮城県では、1978年に発生した宮城県沖地震から27年が経過し、今後30年間の地震発生確率99%と予測されているプレート境界面を震源域とする次の宮城県沖地震の発生が懸念されています。今回の地震による被害は揺れの小さかったこともあり軽微でしたが、依然として宮城県沖地震の危険性は残されています。今回の被害や対応の課題をもとに対策のさらなる強化が必要です。

宮城県災害対策本部会議の様子

打ち合わせを行う照本専任研究員、安富研究調査員

センターの夏休み企画

人と防災未来センターでは恒例の「夏休み防災イベント」を開催しました。子どもたちが熱心に防災クイズに取り組む姿や消火器を一生懸命に扱う姿が印象的でした。

「こども防災クイズ2005」の会場の様子

「夏休みこども防災クイズ2005」では、開催中の特別展「風水害と防災・減災ー台風と集中豪雨の被害を少なくするためにー」とリンクしたクイズを実施。展示をじっくり見て回答する子どもたちで会場は賑わいました。クイズ参加者にプレゼントした昨年猛威を振るった台風24号が地球上にくっきり映っている衛星写真のポストカードは大好評でした。

「地震体験車がやってくる」では、8月12日～14日の3日間、兵庫県広域防災センターが所有する「地震体験車」を借用して“震度7”の体験乗車会を開催しました。3日間で約800名の参加があるなど、地震防災に関する関心は高いようです。

地震体験車

消火体験をする参加者

また8月11日～12日の2日間は、神戸市中央消防署の協力を得て、水消火器を使った消火体験や煙ドームを使用して、煙の中では視界がなくなる体験を実施しました。

一方、ひと未来館では人間の「五感」をテーマにした「遊ぼう、ためそう！わたしを探す感覚ジャーニー」を7月20日～9月25日の間、開催しました。

『感覚』はからだの外や中で起こっている刺激を感じたり、変化を知るための大切なはたらき。この『感覚』をテーマにユニークな展示を行いました。

食べ物、果物、お菓子など「夏の思い出」にちなんだ5つの香をかぎあてる「かぎあてチャレンジ」や太鼓と万華鏡を合わせた音具「ドラミングカレイドスコープ“たたいて万華鏡”」などに来館者は、子どもから大人まで熱心にチャレンジしていました。

万華鏡をのぞく来館者

防災みらいセミナー館内授業シリーズ『誰でもわかるトリアージ』

９月４日に防災みらいセミナー館内授業シリーズ『誰でもわかるトリアージ』を開催しました。

トリアージとは、多数の負傷者がいる災害や事故で、より多くの命を救うため治療の優先順位を判定する行為です。講師は整形外科医の大村純氏と防災ジャーナリストの小林一郎氏。このセミナーでは、参加者の中からケガ人になる役を選び、リアルなメイクをして、本番さながらにトリアージ判定をしました。緊急に命に別状がない人ならば、痛みがあっても治療の順番が後回しになるなど、災害時の選別医療が日常と異なることを学びました。

セミナー会場の様子

防災未来館企画展「センターがおすすめする防災グッズ『非常持ち出し品』編」

防災月間の９月にちなんで、９月６日～１０月２日の間、企画展「センターがおすすめする防災グッズ『非常持ち出し品』編」を開催しました。

災害はいつ、だれの身にも起こります。来るべき災害から身を守るためには、「自分の身は自分で守る」という意識をもち、一人ひとりが災害に備えることが大切です。この企画展では、家庭防災の基本とも言える「非常持ち出し品」について、センターの職員やボランティア等で構成する「防災グッズ有志企画委員会」が、震災のときの経験をもとに、意見やアイデアを出し合い、専門家の方にもご協力いただきながら、人と防災未来センターがおすすめする「非常持ち出し品」を選定し、紹介しました。

センターがおすすめする
防災グッズ「非常持ち出し袋編」

委員会では、非常持ち出し品には、最初の１日をしのぐための装備として、一般的な家庭において最低限用意しておきたい「1 次持ち出し品」と避難した後で、少し余裕がでてから安全を確認して自宅に戻り、避難所へ持ち出すもの、または自宅での避難生活を送るうえで、必要な「2 次持ち出し品」の２段階があると考えました。

展示では、大人二人分の必要な量を想定して 31 品目の１次持ち出し品の実物を展示すると共に、それをリュックに入れて、実際に背負って約８キロの重さを体験してもらえるような展示をしました。

大野淳副センター長兼研究部長のご紹介

今年の８月１日に人と防災未来センター副センター長兼研究部長に就任した大野淳副センター長をご紹介します。

プロフィール

1960年	東京都出身
1978年	埼玉県立浦和高校卒業
1983年	東京大学経済学部経済学科卒業
同年	国土庁（現国土交通省）採用
	国土庁土地局・防災局、建設省河川局等を経て
1995年	震災担当大臣秘書官
2002年	国土交通省大臣官房総務課企画官
2003年	同省砂防部砂防管理室長
2004年	同省都市・地域整備局半島振興室長
2005年８月から現職	

Q：センターにこられる前は、主にどのようなことをされていたのでしょうか。

直前の半島振興室では、半島振興法の改正に携わりました。これまで地域振興、防災、土地政策、産業政策等幅広い業務を経験し、勤務先は国土庁、建設省、通産省、市役所、地域公団などに及びます。勤務地も東京以外に福岡、秋田、また半年ほどアメリカで地震対策の勉強もしましたね。防災について言えば、地震・火山対策、阪神・淡路大震災、復旧・復興政策、河川・砂防行政等の業務に携わりました。

Q：阪神・淡路大震災の時はどうされていましたか。

１月17日発災のときは国土庁（当時）防災局に在籍していました。１月20日徹夜明けで椅子に座って仮眠をしていると急遽秘書課長から呼び出され「震災担当の特命大臣が設けられるので秘書官をやってもらう」と言われ、即座に国会内の小里大臣のもとに出向き、ただちに神戸に向かいました。伊丹空港経由で陸路により入ろうとしましたが、たどりついたときは既に21日になっていました。以来８月８日の内閣改造までの間、嵐のような日々でした。当初は寝る時間も食事をする時間もなく、移動中に寝て食事をとる生活で・・・

しかしながら、このような大災害時に政策決定の中枢の傍にいられたのは、今となっては貴重な体験でした。

Q：就任して３ヶ月経ちましたが、就任する前（就任直後）と現在でセンターの印象は変わりましたか。

センターの震災に関する展示については、かねがね聞いていたところですが、実際に見て当時の記憶がまざまざよみがえりました。調査研究や研修など他の部門については、正直あまり知らなかったのですが、設立から短期間にもかかわらず業績をあげていることに驚きました。

Q：今後の抱負（研究部長も兼務されていますが、特に研究部についても）をお聞かせ下さい。

設立から３年が過ぎ、一定の評価は得ていますが、逆に世間の目は厳しくもなってきています。センターのミッションである「安全・安心な市民協働・減災社会の実現」に向けて、当センターの長所を活かし、組織を確立し、資源を傾注していきたいと思っています。

研究部については、個々の研究員の活動は大切にしながらも、組織としての成果を十分にあげられるように研究の方向性を明確にし、世の中に役立つ研究をしていくことが必要だと考えています。

専任研究員紹介

人と防災未来センターでは、総合的・実践的な防災の専門家として育成することを目指し、今年度10月１日付で、近藤伸也専任研究員を採用しました。近藤専任研究員は、都市地震防災、防災対策支援などの分野を通して、社会の防災力向上を目指し、専任研究員としてのスタートを切りました。

専任研究員は８名となり、阪神・淡路大震災を踏まえた実践的な防災研究に取り組みます。

専門分野：都市地震防災、防災対策支援
経　　歴：東京大学大学院工学研究科
社会基盤学専攻博士課程修了

リサーチフェロー（元センター専任研究員）からの便り

東北大学大学院工学研究科災害制御研究センター
助教授　越村俊一
（センター在籍期間平成 14 年４月～平成 17 年４月）

今年の５月１日から、東北大学大学院工学研究科災害制御研究センターに助教授として赴任しました。10 月から講義も始まり、忙しい毎日を送っています。

大学での研究や教育活動において、学生や私自身にいつも言い聞かせていることがあります。それは、外力を問わず災害というのは、その被害の発生過程において共通の原理・原則があるのではないかということです。被害を生むのは外力とそこにある社会ですから、流体力学や構造力学だけを考えていては分かりません。被害軽減を目指す研究を、自然と社会の原理原則、人間の行動原理の理解を通じて進めていくことが私たちの存在意義だということです。

これは、私が人と防災未来センターでの３年間の研究で学んだことです。人と防災未来センター在籍中は、６人の同僚や一線でご活躍されている先生がたとの共同研究に積極的に取り組み、大きな災害が発生したときには、国内外を問わず手分けして出かけていき、その災害の発生した背景、被害拡大の要因を調べました。津波防災研究が専門の私も、津波災害の被災地だけでなく、NY の 911 テロの爆心地、イランの地震災害、新潟県の水害・地震の被災地に出かけていき、被災者のかたがた、災害対応にあたる行政担当者、ボランティアのかたがたにお会いしました。多くの被災地を訪れ、様々な立場の人たちと出会うことにより学んだ経験が、いまの私の研究の基礎になっているような気がします。

東北地方では、宮城県沖地震・津波、三陸地震津波といった巨大災害の発生が危惧されています。また、2004 年に発生したインド洋大津波災害や、2005 年宮城県沖の地震津波災害など、最近の災害事例から多くの重要な示唆や教訓が得られました。私は、コンピュータシミュレーションや GIS（地理情報システム）を活用し、津波による被害をどのように減らすかというテーマで研究を行っています。単に大学での学術研究にとどまらず、地域を構成する一員として、地域の津波被害軽減に貢献していきたいと考えています。

この場をお借りして、お世話になった方々への感謝の気持ちを述べさせていただきたいと思います。ありがとうございました。また，今後も様々な形でお世話になるかと思います。これまで同様、変わらぬご指導・ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

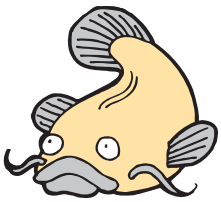
壁面展示『鯰絵ってなあに？ ―江戸時代の人々と地震観展―』開催中！

昔から地震のイメージと結びついてきた鯰。そんな鯰を描いた『鯰絵』は一体いつ頃どのように現れたものなのか。知っているようで知らなかったそんな『鯰絵』が、今回、防災未来館２階の資料室で壁面展示としてとりあげられています。

展示の内容は、鯰そのものの生態から始まり、鯰絵の流行の契機となった安政江戸地震の概要、さまざまな鯰絵の紹介と続きます。それらの鯰絵からは、当時の人々の地震観が伺えます。そして最後に鯰絵の所蔵館の紹介もあります。

資料室には鯰絵の関連図書もあります。展示の概要を盛り込んだ配布用資料も用意しています。ぜひ一度お越しになってご覧ください。

開催期間：平成１７年９月６日（火）
～平成１８年１月１５日（日）
開催場所：人と防災未来センター
防災未来館 資料室 壁面展示



センターの図録発売中！

人と防災未来センター図録が完成しました。

［内容］
- 被災写真
- 阪神・淡路大震災の概要
- 地震の科学
- 阪神・淡路大震災の記録と被災者の記憶
- 行政の主な取り組み、復興状況など

A4 版・80 ページ　定価 1,000 円

センターミュージアムショップで好評発売中。
お問い合わせ先：078-262-5502　企画営業部

「友の会」会員募集

人と防災未来センター友の会は、センターの活動に協力し、積極的に利用して防災対策の大切さといのちの尊さを学習しようとする人々の親睦を深め、センターと連携しつつ、社会の防災力の向上に寄与することを目的に設立されました。

どなたでも入会できますので、たくさんの方の入会をお待ちしています！

会員特典

1. センターへ無料で入館できます。
2. センターの最新情報が手に入ります。
3. 友の会のイベントに参加できます。

年会費

個人会員　3,000 円
法人会員　一口 50,000 円
郵便振替：00940-2-160211
口 座 名：阪神・淡路大震災記念
人と防災未来センター友の会

MIRAI
［人と防災未来センターニュース］
Vol.15
発行／阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

お問い合わせ先

阪神・淡路大震災記念
人と防災未来センター
神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2　〒651-0073
事務局／　TEL.(078)262-5060
観覧案内／　TEL.(078)262-5050
ホームページアドレス／　http://www.dri.ne.jp/

●開館時間　9:30～17:30（入館は16:30まで）
ただし、7～9月は9:30～18:00
（入館は17:00まで）
金・土曜日は19:00（入館は18:00まで）

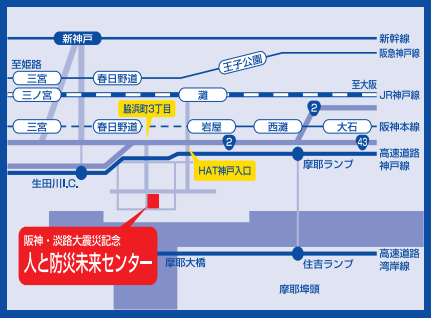
●休館日　毎週月曜日（月曜日が祝日の場合は翌日）
年末年始の12月31日と1月1日
※ゴールデンウィーク（4月28日～5月5日）期間中は無休

●入館料金（団体は20名以上）

区　分	防災未来館		ひと未来館		両館とも	
	個人	団体	個人	団体	個人	団体
大人	500円	400円	500円	400円	800円	640円
高校・大学生	400円	320円	400円	320円	640円	510円
小・中学生	250円	200円	250円	200円	400円	320円

※兵庫県内の小・中学生はココロンカードを提示すれば無料。
障害をお持ちの方及び兵庫県内在住で65歳以上の方は上記の半額。障害者手帳又は年齢・住所のわかるものを提示ください。

交通マップ



■交通　鉄道／阪神「岩屋駅」から徒歩約10分・
JR「灘駅」南口から徒歩約12分。
阪急「王子公園駅」西口から徒歩約20分。
バス／JR・阪神・阪急・神戸市営地下鉄「三宮駅」から約15分。
神戸市営バス
三宮駅前から約1時間間隔で運転。
阪神電鉄バス
三宮駅前から約30分間隔で運転。
車　／阪神高速神戸線「生田川ランプ」から約8分、
阪神高速神戸線「摩耶ランプ」から約4分、
阪急・阪神・JR「三宮駅」から約10分。

■駐車場　有料駐車場（普通車100台駐車可能）このほか近隣にも有料駐車場があります。

■バス待機所
予約制／無料
観覧予約時に待機所利用のご予約をお願いします。

ご意見・ご感想は事務局まで。

平成17年11月発行